

# 中京車体工業株式会社

# 製造現場における進捗状況の管理が紙ベースのため、正確な把握ができていない デジタル技術により作業状況を見える化することで、タイムリーに進捗把握をしたい

## 中京車体工業株式会社 実証結果【1/4】

### 企業概要

- 企業名  
中京車体工業株式会社（愛知県豊明市）
- 社長  
森 孝義
- 概要
  - 昭和20年（1945年）創業
  - 福祉車両、幼稚園バス、検診車、移動図書館車など特殊車両の架装、車体製造を行う
  - 2022年5月には豊明市にて新工場を立ち上げ



### デジタル化推進の背景

- 作業指示書を紙ベースで出力し、作業終了毎にチェック項目に進捗状況を記載している
- 品質管理部門が、車両が作業指示書通りにできているかどうかを確認し出荷しているが、紙ではなく、タブレットを活用して状況把握ができないか考えている

### 導入ツール



- 「Excel読み込み」や「ドラッグ&ドロップ」で簡単にシステム構築ができる業務改善ツール
- 顧客管理案件や日報など幅広い用途で使用可能で、リアルタイムでの共有、情報の一元化が可能

# 現場が紙で作成し事務方がデータ入力している業務をデジタル化することで 工数を削減しつつリアルタイムで進捗状況確認ができるようになることを目指した

## 中京車体工業株式会社 実証結果【2/4】

### モデル実証を通じて解決を目指した課題

#### 進捗状況の見える化・工数削減

- 製造現場で紙ベースの作業指示書をもとに進捗状況を把握するとともに、紙で作成した各人の日報を事務方がデータ入力しているが、リアルタイムに状況を把握しづらく、また工数も多くかかっている

### 課題解決に向けた取組内容

#### 日報のクラウド化

- 作業指示書に基づく作業内容を現場でkintoneベースの日報に入力することで、リアルタイムで進捗状況を確認できるようになるとともに、データ入力工数を削減することを目指した

# 現場にデジタルツールを導入することの難しさを改めて実感する一方、 自社の工程管理もデジタル化できる方向性が見えてきた

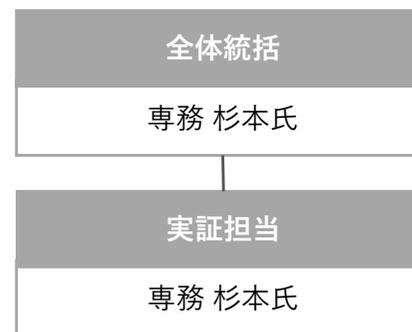
## 中京車体工業株式会社 実証結果【3/4】

### 実証時に感じた壁および克服のためのアクション

#### 実証に関与する工数が確保できなかった

- kintoneを使える人材が1名いるのだが、現業が多忙であり本実証に参加できなかった  
⇒ 専務 杉本氏が基幹システムからのデータ抽出、日報の仕様検討なども実施しカバーした
- 結果的に、ドラフト作成が年末近くなり、現場の繁忙期と重なってしまったため現場での試行ができなかった  
⇒ 23年春以降の閑散期に、改めて今回作成したドラフトをベースにした試行を検討することとした

### 実証体制



- 担当者の工数確保が難しかったため、専務 杉本氏がデータ抽出なども実施した

### 取組の成果

- 自社は特殊車両の架装という単品管理が求められる業種であるため、特に工程管理等現場のデジタル化は難しいと考えていたが、今回の取り組みで、紙での情報のやりとりをデジタルに転換ができることが認識できた

# 自社の繁忙期を避けるなど年間計画を明確にした上で現場も巻き込みながら全社のデジタル化を進め、若年層も働きやすい職場にしていきたい

## 中京車体工業株式会社 実証結果【4/4】

### 今後の課題・目標

#### 課題

- デジタル化を進める専門人材をなかなか確保できないため、今後は既存人材で取り組めるデジタル化を使いやすいツールを進めていくとともに、このような取り組みを通じて働きやすい・進んだ職場であることをPRし、優秀な人材の一層の確保を進めたい
- どうしても年末～年度末など、現場業務の繁忙期には新しい取り組みが実施しにくいので、年間スケジュールを考えながら新しい取り組みを進めていきたい

#### 目標

- 基幹システムから紙に出力実施している業務を、kintoneにデータを移してペーパーレスで業務を実施できるようにしたい
- 現場の工程管理をデジタル化するとともに、見積～出庫までを一元管理できるようにしていきたい

### (デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

- 今回の実証では、社内の役職員の目をデジタル化へ向けさせるような根回しについて十分に取り組むことができなかった。当社も含めて、特に単品生産の製造業ではプライドの高い職人が多いため、ここへの浸透をどうするかが重要。ホワイトカラーとは考え方が違うということを肝に銘じてプロジェクトを進めることが重要。具体的には、職人の中のカリスマを上座にしてプライドを立てる、現場が得られるメリットを提示するなどにより、現場のキーマンとなる職人を巻き込むことが必要不可欠であると感じた